

## 世界の生食用ブドウ産業 2025年の総括

[The Grape Reporter 2025年12月29日](#)

### 生食用ブドウ貿易は需給関係を再構築

世界の生食用ブドウ産業は、**南半球の供給動向の変化**と米国等主要輸出先における**競争圧力の高まり**の中で2025年の幕を閉じた。ペルーは生産量及び市場展開の拡大を続け、チリは品種の転換を加速させたため出荷量を減らした。同時に、貿易障壁、物流の混乱、米国での消費の減速により、輸出入業者は2026年シーズンの戦略の再考を迫られた。

#### ペルーは成長し、チリは後退

2025-26年度のシーズンに向けて、ペルーとチリは南半球の生食用ブドウ供給国として支配的地位を維持した。ペル一生食用ブドウ生産者協会(PROVID)は、前年比約4%増の約8,610万箱(18.1ポンド(約8.2kg)/箱)の収穫を予測している。これは主要産地における栽培面積の拡大と収量の増加によるものである。

一方、チリは見通しを6,360万箱(18.3ポンド(約8.3kg)/箱)へと下方修正した。同国の生食用ブドウ委員会(果実輸出業者協会傘下)によれば、これは前年比約6%の減少となる。この修正は、従来品種の栽培面積が減少し、ライセンス品種への改植が続いていることを反映している。

2025年1月から10月の期間に、**ペルーの生食用ブドウ輸出**は輸出量、輸出額の両面で増加し、同国は史上最高の輸出で年末を迎える可能性が高い。この成長は、総輸出量、輸出市場の拡がり及び周年供給の面でチリとの差をさらに縮めている。

#### 中国と米国が競争の構図を再定義

中国は輸入生食用ブドウの主要な成長市場としての役割を拡大し、チリ、ペルー、南アフリカ、イタリア等からの供給者間の競争が激化している。

果実情報のフルクトゥアンテ社が引用したデータによれば、中国の生食用ブドウ輸入量は2005年の5万7千トンから2024年には10万9千トン(約2億4千万ポンド)以上に増加した。

世界最大の生食用ブドウ生産国であるにもかかわらず、**中国は年間を通じた需要を満たすため輸入に依存**している。主な供給国はオーストラリア、ペルー、チリ、南アフリカ、インド、韓国、米国等である。

米国市場ではチリが依然として主要な供給国であったが、ペルーは輸出量の増加と品種の品揃えの拡大により引き続き市場シェアを伸ばした。

2025年には米国内の生産も変化した。カリフォルニア州は5月12日の週に収穫を開始し、その後にドミニカ共和国産が米国市場に入荷した。カリフォルニア州の出荷シーズンは例年より約1週間早く感謝祭(11月27日)の直後に終了し、その時点で冷蔵品の在庫が少ない状態であった。

#### 貿易政策及び物流も圧力に

貿易と規制の動きは、米国向けに供給する輸出業者に大きな負担を強いた。

2025年には、チリ産生食用ブドウに対するシステムアプローチの停止が、コストの増加と物流上の困難に関する懸念を引き起こした。米国農務省(USDA)はワシントンD.C.の連邦裁判所の判決に対して抗告しているものの、チリの業界筋は2025年中の解決を見込んでいない。

関税政策もこの品目に影響を与えた。トランプ政権下で課された相互関税は、チリ、ペルー、ブラジル等からの生食用ブドウの輸入に対して引き続き適用されており、他の果実の追加関税が撤廃された後も継続している。なお、ブラジルは2025年に生鮮ブドウの植物検疫プロトコルが確定し、中国市場へのアクセスを得た。

#### 物流の混乱は供給をさらに困難に

南アフリカの輸出業者らは11月と12月には港湾の混雑と検査の増加に直面し、これにより着荷が遅れ、ペルー及びチリとの競争が厳しい中で販売の機会が制限された。

2025年には法的執行も話題となり、育種会社のブルームフレッシュ社は、知的財産権の侵害に対して中国及びイタリアで大きな法的勝利を収めた。

### 業界の協力と品種への注目

メキシコ、チリ、ペルーの業界団体は、チリ果実輸出業者協会(Frutas de Chile)、メキシコ生食用ブドウ協会及びペルーア生食用ブドウ生産者協会(Provid)が主導し、「グローバルグレープグループ」を立ち上げた。このグループは、米国をはじめとする世界の生食用ブドウ消費を促進することを目的としており、生産者から小売業者までサプライチェーン全体の関係者が参加している。

このグループは、供給の伸びが需要の伸びを上回ったことから設立された。チリ、ペルー、メキシコからの合計出荷量は過去8年間で41%増加して約1億箱に達したが、同じ期間の米国の消費量の増加はわずか3%にとどまった。米国の1人当たり消費量は、2005年の約8.6ポンド(約3.9kg)から2025年には約8.4ポンド(約3.8kg)へとわずかに減少した。

品種の革新と収穫後処理技術は年間を通じて中心的テーマであり、生産者及び供給業者はサイズ、棚持ち、消費者嗜好を重視している。世界ブドウ会議(GrapeTech)や地域の技術フォーラム等の業界の集会では、生産効率、持続可能性、及び品種の適応に焦点が当てられた。

ブランドブドウはヨーロッパで注目を集め、サンワールド社はデンマークでのオータムクリスピ品種のデビューで先頭に立っている。同社はデンマークの小売業者サリンググループとの最近の提携により、この分野で大幅な成長を遂げ、このブランドの欧州大陸デビューにより90%の売上増加を達成した。

### 今後を見据えて

2025年末までに、生食用ブドウ部門は転換期を迎える。ペルーは引き続き規模拡大と輸出先の多様化を進め、チリは輸出量が少ない中でプレミアム品種に注力し、南アフリカは物流上の課題を克服し、米国と中国は世界貿易の流れに対する影響力を拡大した。

業界関係者らは、競争が激化するグローバルな環境下では、成功は量だけに依存するのではなく、一貫した品質、物流の実践及び規律ある市場出荷のタイミングに依存するものであると見なすようになっている。